



『こもろのひろば こぼれ話』



～郷土の事柄をわかりやすく紹介するコーナーです～

「先進的な学者 大原幽学 ～与良町とのつながり～」

今年度の9月～10月にこもろのひろばで開催した企画展示『こもろ散歩①野岸小学校編』で与良町に関わる歴史や人物について紹介をしました。そこで扱った「大原幽学」という人物について、詳しい情報を頂きましたのでご紹介します。

大原幽学は江戸時代の学者で、「性学」という教えを農民に広めました。「性学」は神道・仏教・儒教などを一体化した幽学独自の道德思想であり、この思想を基にして幽学は農民への指導を行ないました。

幽学の指導の下、天保6年（1835）に下総の長部村は復興に成功し、幽学は領主より表彰されました。しかし嘉永4年（1851）に幽学に反感を抱く勢力が性学の教導所「改心楼」に乱入する事件が起こり、安政4年（1857）にその裁決により幽学は押込百日（謹慎・幽閉）と改心楼の棄却などを奉行所より言い渡されました。この裁決に失意した幽学は謹慎から解放された後に自害しました。しかしその教えは門人達に受け継がれ、「八石性理学会」として2020年現在も活動が続けられています。

そんな幽学が農村改革の指導者として公的活動を開始した最初の場所が現在のの上田市と小諸市でした。天保元年（1830）に上田に来訪し、翌年から与良にあった翁屋（小山嘉吉家）にも出向き、農村改革や農業指導をしていました。同6年（1835）に長部村に居住して本格的に指導者として活動し始めた後にも関係は続き、弘化2年（1845）以降にも度々小諸を訪れ指導を続けました。嘉永2年（1849）の頃には与良町の住人を中心に25名が門人として性学を学んでいました。与良の人々は幽学が不在の際にも熱心に性学を学び、与良の子どもたちも遊びに連れ出してくれた幽学を「布袋先生」と呼んで親しまいました。

今回教えて頂いた情報を基に、展示資料も一部修正しました。もし展示資料で気になる点や載っていない情報があれば、皆さんもぜひ職員にお声がけ下さい。

大原幽学は二宮尊徳のように農民指導を行なった人物で、江戸時代にはまだ珍しい先進的な思想の人だったんだ。知らなかった事を知れて、職員もとても勉強になったよ。



こもろのひろば
担当 キート

【参考資料】

『大原幽学とその周辺』木村礎／編（八木書店 1981年）

『小諸市誌 歴史篇3 近世史』小諸市誌編纂委員会／編（小諸市教育委員会 1991年）